


# 「温故創新の会」のご紹介



シビルNPO連絡会議  
平成24年4月24日

事務局長 大野 博久

# 会の概要

## ■実態

- 設立年月日 : 2007年1月31日
- 認証機関 : 東京都
- 会員数 : 14人(初期会員24人、設立総会参加者34名)

## ■設立の動機

当時は、団塊の世代の一斉退職に伴い発生する問題(2007年問題)、とりわけ技術の空洞化が騒がれ、製造業を中心に、つぎのような対策で問題を回避しようとしていた。

- ・雇用期間の延長
- ・他企業等の退職者の獲得
- ・会社内部での技能伝承の制度化
- ・技能者枠での新卒採用拡大

創設者(清野茂次)は、この国家的な問題の影響を危惧し、建設コンサルタント業界において責任ある立場にあったことから、社会基盤整備分野における技術の継承面で、社会に貢献できる事業を核とするNPOの設立を決意した。

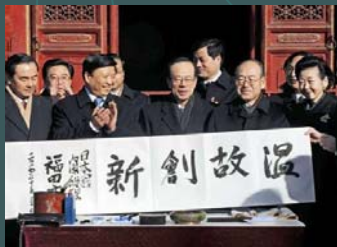
# 目的と名称の由来

## ■会の目的

本会は、主に社会基盤(インフラ)整備分野を中心に、業務の第一線を退いた技術者が中核となって、自ら保有する知識、技術、ノウハウを、次世代に継承・助言・普及する事業を通じて、人づくり、まちづくり、環境保全、国際協力、科学技術の振興等に寄与することを目的としている。

## ■会の名称

団塊世代以前の技術者(旧世代)は、全体計画を把握し、各工程を一つずつ手仕事で処理しながら経験を重ね、それを知識・知恵、技術・ノウハウなどに変えてきた。一方、最近の技術者(新世代)は、充実したソフトウェアとコンピュータ技術を駆使して、迅速に結果を得ることを業務遂行の基本としている。この考えから、故き(旧世代の技術)を温ね、新しき(新世代の技術)を創りだすことを使命とする名称を模索し、温故創新の会と命名した。



2007年12月30日、福田首相は4日間の中国訪問を終えるにあたり、孔子の故郷、山東省曲阜を訪れ、長年の夢をかなえた。同首相は見学の感想として「温故創新」と揮毫した。「温故創新」には、「歴史を鑑とし、未来に目を向ける」という意味が含まれている。

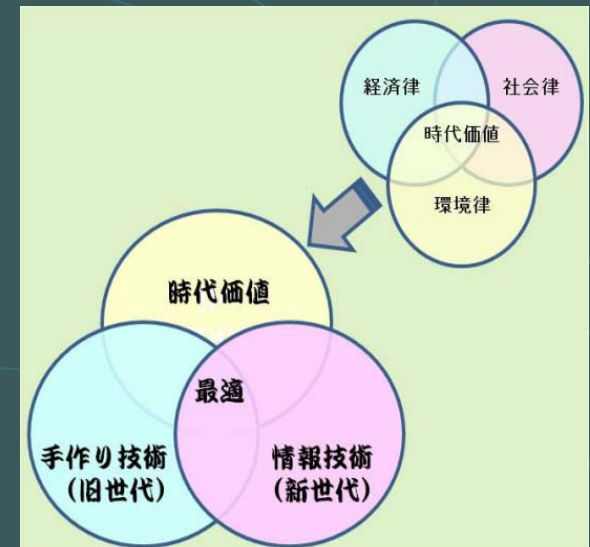
# 会の理念と構想

## ■理念

- 旧世代が蓄えた技術が新世代の技術者に確実に継承され、人材が適正に育つ仕組みづくりに貢献する。
- 「ヒト」「モノ」「コト」の三位一体的な連携を重視した活動を展開し、旧世代の培った技術を新世代のもつ優れた素質に刷り込む。

## ■構想

- 「教育」「文化」「福祉」など国が抱える諸課題の解決も常に視野に入れて安全・安心で、健康、福祉の向上が期待できる社会を構築する。
- 「経済」「社会」「環境」の3つの側面において価値の向上が見込める提案を、新旧世代が一体となって追求することで温故創新を実現する。
- 建設以外のNPO組織等との連携も深め、より価値のある活動が可能な運営形態を指向する。





# 専門部会とサービスの内容

## 1. 河川／下水道部会

- ・集中豪雨の影響と対応法
- ・河川伝統工法

## 2. 道路部会

- ・道路事業化に向けた最適路線の選定のための道路設計

## 3. 鉄道部会

- ・リニアメトロ発展の鍵
- ・踏切事故の回避方法 — 立体交差工事の早業 —
- ・古い鉄道橋 特に鉄ゲタの強度(耐力)照査

## 4. 土質及び基礎部会

- ・土質に着目した宅地造成設計のポイント
- ・地盤調査資料の活用法

## 5. 橋梁・構造部会

- ・複合構造及びプレキャスト構造技術の紹介

## 6. トンネル・地下空間部会

- ・トンネル技術に関わる知見及び情報の提供

## 7. 品質／プロフェッション部会

- ・技術者倫理、設計論、コンサルタント論、経営論、育成論等
- ・設計ミス防止とマネジメント
- ・設計の信頼性 — デザイン・レビューの適用 —

# 会の事業

## ■事業

### ◆技術継承事業

- ・技術に関する相談、助言・指導
- ・技術の継承に関連する助言・指導



### ◆技術普及事業

- ・産学官による技術の研究開発
- ・技術セミナーの開催



### ◆指導育成事業

- ・能力開発に関わる個別指導
- ・人間力、技術力等の資質向上指導

### ◆技術協力事業

- ・各種類似団体との技術交流
- ・海外への技術協力・技術支援

## ■実績

- ・技術士受験の指導
- ・中堅技術者の育成指導討議
- ・「パッテンライ！！～南の島の水ものがたり」の上映と解説
- ・トンネル技術の講義
- ・トンネル・地下空間利用の出前講座

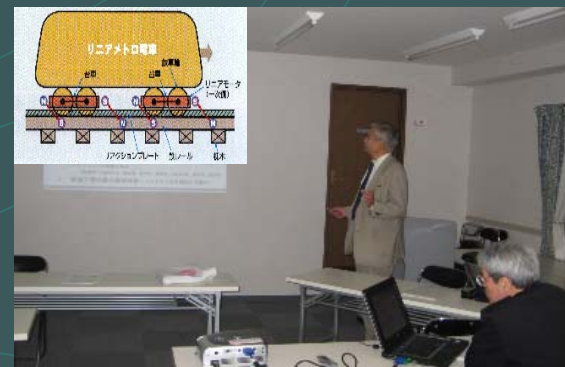
# 勉強会①(講演会)

①演題 : 「武士道と技術者倫理」(2007年5月31日)

講師 : 清野茂次

②演題 : 「リニアメトロ電車の話」(2008年6月2日)

講師 : 安藤正博



③演題 : 「航空レーザーで取得した三次元地形モデル情報活用」  
(2009年6月3日)

講師 : 大塚正幸

④上映会 : 「パッテンライ！！～南の島の水ものがたり」(2010年  
6月14日) 台湾・嘉南平野で大規模な灌漑施設の整備  
に尽力した日本人土木技師八田興一のヒューマンなアニメ  
映画(虫プロダクション製作)

解説 須山富直



# 勉強会②(提供サービスの相互紹介)

## ①「河川情報の収集・整理法」

- ・現場情報の必要性
- ・聞き込み調査・資料収集
- ・調査準備
- ・現場写真の撮り方
- ・現場の観察と記録
- ・現場調査報告

## ②「膨張性地山掘削の予知と対策と事例収集」および「公表文献に基づく難工事地山と地質・地質構造との関連に関する分布調査」

## ③「設計の信頼性について」(設計審査(デザイン・レビュー)の適用)

## ④トンネル施工に関して若い技術者へ継承したい古典技術

- ・NATMの理念の再認識
- ・膨張性地山掘削の予知と対策と事例収集
- ・公表文献に基づく難工事地山と地質・地質構造との関連に関する分布調査

## ⑤「技術提案文書作成情報の伝達・継承」

- ・提案文書作成の目的
- ・技術の研究開発
- ・技術セミナーの開催
- ・一般市民との技術コミュニケーション

## ⑥「土木の温故創新」 “サステイナ”と呼ばれたい人類の為、国の為



# 勉強会③(話題提供・討議)

---

- ①話題 : 「土木設計技士」及び「技術伝承士」(2009年10月28日)
  - ・建設コンサルタント設計組合に「土木設計技士」制度の誕生
  - ・「技術伝承士」としての「土木設計技士」の意義
  
- ②話題 : 「公共事業の復権」(2011年6月15日)
  - ・公共事業・善玉論
  - ・公共事業・必要論
  - ・日本経済のバランスシート
  - ・国土再生の機会
  
- ③話題 : 『新製品の研究開発を成功させる経験則』(2011年11月9日)
  - ーリニアメトロ電車の研究開発事例を通してー
  - ・リニアメトロ電車の現況
  - ・リニアメトロ電車の研究開発史
  - ・リニアメトロ電車の研究開発が成功した理由
  
- ④話題 ; 『踏切事故は何故なくならないか』(2012年2月8日)
  - ・深刻な踏切問題
  - ・踏切の歴史的変遷
  - ・踏切対策の取り組み方への問題点